

第79号 「視点転換」

令和2年7月9日

ある番組で、マスクを付けていない人に対する暴言について報じていました。他者を攻撃するような言動は絶対に許せませんが、人混みの中に出るのなら、感染防止のためのマスク着用は当然という思いが私にはありました。しかし、マスクを付けると痛みを感じてしまうため着用できないという「感覚過敏」の人の話が紹介され、感覚過敏という言葉は知っていてもその人の気持ちまでは考えることができていなかったことに、改めて気付かされました。そして、その人が語った「視点を変えた見方をしたい」という言葉が私の心に響きました。

感覚過敏とは、「視覚」「聴覚」「味覚」「嗅覚」「触覚」などの諸感覚が、とても敏感になっている状態のことです。感覚過敏がない人にとってはなんでもないことが、感覚過敏がある人にとっては生活していく上で支障となることがあります。たとえば「聴覚過敏」の人は、目の前の人と会話しているときにも周りの人の声や雑音と混ざったように聞こえてパニックになってしまうことがあるそうです。最初に紹介したマスクを付けると痛みを感じてしまうような「触覚過敏」の人の中には、人と触れるだけで痛みを感じるため握手さえできない人もいます。その痛みは当事者にしかわからないことですので、私には痛みを共有することはできません。私としては、痛みを想像し、心に寄り添い、どう対応すれば良いのかを考えることしかできないのです。

教育の世界で、「相手の気持ちになって考える」という言葉をよく使います。しかし、相手の気持ちはその人本人にしかわからないはずで、自分では相手を喜ばせるつもりでやったことが、本当に相手が喜んでいるのかはわかりません。相手にとって良かれと思ってやったことが、相手の迷惑になることだってあります。自分がもし相手だったらと考えている時点で、相手ではなく自分が中心になっているのです。

物事を様々な視点から捉えるには、学びと経験が必要です。自分にどれだけの引き出しがあるのか、言い換えれば経験値をどれだけ有しているのかが鍵となります。ただし、知識と経験が豊富だとしても、他者からの信頼を得ることができるとは限りません。自分にも相手にも、それぞれにしかわからない気持ちがあるからです。

私は世の中の何%のことを知っているのでしょうか。気付き、知り、理解し、考え、感じ、想像し、行動する。この繰り返しが必要なのでしょうね。私も学び続けます。